

環境コミュニケーションを通して、さらに環境活動に邁進してまいります。



九州電力株式会社

代表取締役社長

西野 重雄

ごあいさつ

今日の大量生産・大量消費・大量廃棄の社会経済システムは、人類に様々な利便性をもたらす一方で、自然環境に多大な負荷を与え、その負荷は自然環境の復元力を越えようとしています。

こうした「地球環境の危機」を克服し、社会の発展と環境との調和を図るためには、この様な社会経済システムを見直し、将来世代と環境の恩恵を分かち合える「持続可能な社会」の実現を目指さなければなりません。

こうした取り組みの一つとして、地球温暖化防止に向けて温室効果ガスの削減を目指した「京都議定書」があり、ロシアの批准を待って発効しようとしています。その間も、世界のCO₂排出量は増え続けています。

日本においても、その削減は容易ではありませんが、企業や行政あるいは生活者一人ひとりが、それぞれの立場で、省エネルギーや燃料転換、原子力の開発など様々な取り組みを行っております。

地域とスクラムを組み、真に豊かな社会とは何かを考え、行動していきます。

九州電力も、「地域とスクラムを組み、真に豊かな社会とは何かを考え行動する」ことを企業理念に掲げて



事業活動を展開しており、2001年2月には、それまでの規制対応型の環境保全活動からより積極的な環境活動へ発展させるため、新たに「環境憲章」を定め、
くすべての事業活動において、環境保全意識を持ち、豊かな環境の実現を目指し、環境情報を公開する。>
こととしています。

環境活動の充実・改善を図り、 地域と共に循環型社会を目指します。

具体的には、

- ① 全社における環境マネジメント体制の整備
- ② 原子力開発の推進を中心としたCO₂の排出削減
- ③ 循環型社会を目指したゼロエミッション運動
- ④ 九電グループ大での環境経営の推進
- ⑤ 地域と一体となった「九州ふるさとの森づくり」などの取り組みを積極的に行ってきました。

今後も、社員一人ひとりの実践を基本に、更なる環境活動の充実・改善を図っていきます。特に、循環型社会・持続可能な社会を目指して、エネルギー・環境教育や環境事業などを地域とともに考え、展開していきたいと思えます。

皆さまとのコミュニケーションを通して 環境活動をさらに充実していきます。

この環境アクションレポートは、今回で7回目の発行となりますが、お読みになられる皆さま方のご理解をより一層深めていただくために、社外の有識者やお客さまからのご意見をもとに内容の充実に努めました。

今後も、より多くの方々との環境コミュニケーションを通して、環境活動を更に充実させていきたいと考えております。

皆さまの率直なご意見・ご感想をお待ちしております。

